

着力が強まり安定した加工が可能となる。シンプルな構造であることから、メンテナンス性も大きく向上するといふ。同工場では2年ほど前から、ファイバレーザー溶接ロボットやファイバレーザー・タレパン複合加工機などを主要工程での設備投資を行い、加工体制を強化してきた。取引先の半導体メーカーが生産設備の増強を進めていることなどから、工場の稼働率は高く、繁忙期は奈切工場からのバックアップを受ける。

奈切工場はこれまでステンレス製の流し台などの加工を中心に行っていたが、近年は新設備の導入や人材育成を進めることで新たな加工能力を獲得している。今回、新たにハンディタイプのYAGレーザー溶接機を導入。

会長を務める新日鉄住金の阿部浩一郎・中国支店長が「鉄鋼製品の需給環境が整いつつある今こそ、皆さまの協力をいただきながら、価格上昇のトレンドをしつかりしたものにしていきたい。われわれ、

左から河野さん、菅田社長、岩本さん（徳山興産）



「下関海響マラソン2017」が5日、山口県下関市で開催された。今年は第10回の記念大会で、過去最多の約1万3000人のランナーが参加。秋晴れの下、参加者は瀬戸内海と日本海の二つの海沿いを走る美しいコースを力走した。

下関海響マラソン、徳山興産・山原商会から参加



左から田中さん、山原社長、高井さん（山原商会）

ルを手掛ける徳山興産の菅田英男社長は4回目の参加。昨年はケガで参加を見送ったが、今年は徳山興産の石川耕司・総務部長、河野一輝さん、岩本尊賢さん、グループ会社の徳山メタルの安達慎一さんとともに出場。多忙で十分なトレーニング時間を確保できなかったものの、4時間34分32秒の記録で完走した。毎年、ランナーとして参加していた村岡嗣政・山口県知事のタイムを目標の一つに設定しており、今回、初めて目標を達成。「来年はしっかりと準備し、4時間を切りたい」と決意を新たにしている。

山口県宇部市で金属リサイクルを手掛ける山原商会の山原一紀社長は3回目の参加。同社従業員でフルマラソン初挑戦の高井雅斗さんと、田中拓郎さんとともに出場し、見事完走。タイムは4時間19分38秒だった。山原社長は「前回よりもタイムが伸びなかった」と悔しさをにじませながらも「足にマメもできたが、走り切れた。来年またリベンジしたい」と意欲を見せる。【下関】

鉄鋼メーカーは鉄が素材製造やリサイクル時の環境負荷低減を含め、ライフサイクルに配慮した素材であること、省人化、省力化を可能にする工法と組み合わせた商品であることとをPRしながら、ユ

材の3社が製品紹介を行った。新日鉄住金は高い意匠性を持つチタン製品の新ブランド「トランティクシー（TranTixxii）」をPR。吉川工業は高力ボルトの摩擦接合に使う添板にアルミ溶射を施すことで、高いすべり係数を確保し、高力ボルト継手のコンパクト化を実現する「ハ

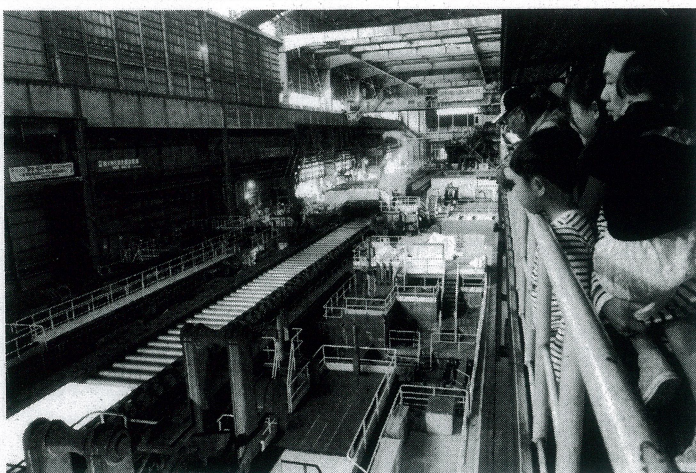
イ・ミュー・プレート（High-Mu Plate）を紹介した。日鉄住金建材は土石流などの災害対策のため全国で採用拡大が進む鋼製スリットダムについて説明した。

会場では新日鉄住金、吉川工業のほか、日鉄住金溶接工業、日鉄住金テクノロジーの4社が商品展示も行った。その後、日鉄住金総研の倉沢鉄也シニアコンサルタントが「ものづくりのBottomにこそ売る工夫を」と題して、マーケティングの考え方や素材産業、部品業界などの営業事例について講演した。

JFE西日本フェスタinくらしき

9万人来場、工場見学も

展示ホール、刷新後の初公開



工場見学の様子

【倉敷】岡山県倉敷市のJFEスチール西日本製鉄所倉敷地区構

恒例の工場見学は、

内て3日、JFE西日本フェスタinくらしき」が開かれた。青空の下、家族連れなど9万人（主催者発表）が来場、出店や工場見学、芸能人のステージなど催し物を満喫した。メインステージにはスパー銭湯アイドル「純烈」やお笑いコンビ「髭男爵」が登場し、会場を盛り上げた。タレントのサザン又さんと倉敷市の伊東香織市長の対談も開かれ、輝く女性」をテーマに、子育てや仕事などについて話した。

けて子供たちが仲良く遊んでいた。

らしい社員と仕事をしており、これは財産で